

—2022年東京・岡山歴史交流シンポジウム3年連続開催—

古代日本の中心は畿内・九州ではない。
首都邪馬台国の中心は(吉備国)岡山!

第三回、定説への叛乱 in 岡山

日時:9月3日(土)、4日(日)(2日間)

(午前11~4時) (午前10~4時)

場所:蔭涼寺:岡山市北区中央町10-28

(臨濟宗)JR岡山駅東口、徒歩16分 TEL 086-223-5853

(西川、瓦橋交差点すぐ 岡山市役所より4分)

(一日):40名(先着順)(予約無し、コロナ対応のため遅刻した方入場不可)

- 会費:一般(一日2500円)、二日連続(4300円)
- (女性・81歳以上の方・学生・他府県の方割引します)

<問題提起>

- ◎ 天皇称号の発生地は岡山(吉備国)か?
- ◎ 奈良の箸墓古墳の被葬者は吉備の首長(崇神天皇)か
- ◎ 温羅伝説は栄西禅師によって創作された?
- ◎ 造山古墳の被葬者は桃太郎のモデル 応神天皇か?
- ◎ 鬼の城の日本一の敷石面積は、(天宮)天皇の宮の証拠か?
- ◎ 鬼ノ城築造は、総社秦氏が主体?

挨拶:古川克行氏、佐藤光範氏

不滅の講師陣:(岡山)出宮徳尚氏 山田良三氏 中西厚氏

岡将男氏 高木寛治氏 谷山雅彦氏

(香川)大河内義雅氏

(東京)山上智氏、平山牧人(呼びかけ人)

主催:同交流シンポジウム実行委員会(東京)

協賛:岡山歴史研究会、東京古代史研究会

シンポジウム実行委員会事務局:〒108-0023 東京都港区芝浦4-8-110 平山方

お問い合わせ:(FAX)03-3454-7753 (携帯)080-9654-2272

ホームページ:<https://senkodaishi.com>

(2日間のタイム・テーブル変更あり)

9月3日(土) 11:00~16:15		9月4日(日) 10:00~16:00	
11:00	(進行説明) 挨拶 古川克行氏 佐藤光範氏	10:00	(進行説明)ご挨拶
11:20	基調講演 出宮徳尚氏	10:20	高木寛治氏 講演
12:20	昼休み	11:10	大河内義雅氏 講演
13:15	山田良三氏 講演	12:00	昼休み
14:05	岡 将男氏 講演	13:00	(紙上参加講師紹介)
14:55	山上智氏 講演	13:30	中西厚氏 講演
15:45	(自由発表の場)(明日案内)	14:20	(参加者自由発言の場)
16:15	(解散)	14:50	講演 平山牧人
		15:50	ご案内(第4回シンポジウムに向けて)
		16:00	解散
		17:00	二次会希望者

ご協力の皆さん(順不同)

岡山：古川克行氏(岡山桃太郎の会事務局長)、黒田晋・知恵氏(岡山県郷土史家)、岡田 博氏(前古代吉備文化財センター)、出宮徳尚氏(岡山城天守閣専門員)、佐藤光範氏(岡山磐座研究家)、高木寛治氏(総社市磐座研究家)、合田憲隆氏(本隆寺住職)、津曲真人氏(熊山研究会)、小藪誠司氏(玉野市)、岡野進氏(熊山研究会会長)、谷山雅彦氏(総社吉備路文化館館長)、中西厚氏(大廻り小廻り研究家)、丸谷憲二氏(吉備国の語り部の会会長)

東京他地域：香川重善氏(善通寺文化財保護協会会員)、河野博氏(三豊市アートで田んぼ主催者)、品川清氏(大阪吉備歴史研究家)、松川忠嗣氏(日本桃太郎の会会長)、岩崎純一氏(日本大学芸術学部非常勤講師)、菊池秀夫氏(歴史研究家)、山上智氏、川副秀樹氏(東京神社研究家)、前田豊氏(東京古代史研究会名誉会長)、室伏志畔氏(幻想史学の会主宰・大阪)、下枝広明氏(渡来人研究の会主宰・札幌)、山内雄二氏(徳島県歴史研究家・徳島)

後援：(岡山) 秦歴史保存協議会、本隆寺(日蓮宗・北区新庄上)、東京吉備(岡山)歴史研究会、日本の歴史と文化を楽しむ会、岩崎純一学術研究所(IJAI)

テーマ・内容紹介(順不同)

不滅の挨拶

古川 克行氏	おかやま桃太郎の会事務局長、元山陽放送	
<p>「桃太郎伝説の生まれたまち おかやま」今年は古墳にスポットをあて、「古墳パン」で地域を盛り上げようとしている。</p> <p>吉備最大の古墳「造山古墳」については、かつて発掘調査の企画が持ち上がったことがある。それは「新しい桃太郎を創ろう」という吉備文化の調査・研究から始まった。山陽放送学術文化財団の中に「古代吉備研究委員会」が置かれ、桃太郎とされる吉備津彦命の調査、鬼の温羅の居城、鬼ノ城の発掘と成果を残し、さらに「造山古墳」に切り込もうと発掘調査へと案が練られたが、残念ながら幻と帰した。</p>		
佐藤 光範氏	郷土史研究家、岡山県磐座研究家	

不滅の講師陣

出宮 徳尚氏	古代吉備国を語る会会長	吉備津彦の正体
<p>吉備津彦は、古代の吉備を象徴する人物像であり、歴史的キーワードを担っている。第一が、記紀の吉備の群像達と大王系譜の編めることであり、この吉備津彦系譜は倭国大王の世代系譜と並行関係にある点である。第二に、吉備津彦系譜は倭国の地方統治者国浩の由緒になり得ている点である。第三に、吉備津彦が神格化した「吉備津彦神」は、律令国家成立時には無視されていたが、平安時代に再評価されて皇室の祭神と最高神位と軍神に処遇されている。倭国形成に吉備が果たした業績の擬人化であり、大和政権に対峙する吉備政権論とは相容れない。</p>		
中西 厚氏	熊山遺跡研究会	霊山熊山の石積の謎
<p>熊山の山中には国指定の石積遺跡をはじめとして、大小の石積が築かれているが、石積遺跡は大日如来を祀る立体マンダラである。そして麓には、秦氏、鑑真、修験者などの足跡が残されている。奈良時代には北麓の和氣清麻呂が熊山を制覇したが、麓の農民にとっては、熊山は聖なる山であり、熊山権現の祭日には、遠く四国からも蟻の這うごとく熊山に登っていた。</p>		
岡 将男氏	楯築ルネッサンス副代表	楯築遺跡の再評価と、牛窓の応神天皇
<p>発掘から 50 年、楯築遺跡の報告書が出た。特殊器台が 34 個、大柱三本、家型器台 10 個も確認、いよいよ給水塔の撤去も日程に入った。まだまだ吉備の遺跡の再評価は必要だ。</p> <p>資治通鑑翻訳は三国志時代に入り、匈奴や鮮卑等遊牧民族と倭国の関係に迫りつつある。牛窓の語源は「牛転(うしまろび)」というが、これは前秦の苻洛の「坐して牛を制する」と関係あるのでないか。また「牛頭天王」にも興味が湧く。</p>		
山上 智氏	古代史研究家 横濱 USA の会・会長 西日本平家会・関東支部長	邪馬台国と岡山の桃太郎伝説との驚くべき一致点!?
<p>魏志倭人伝を読み解くと福岡県神湊(こうのみなど)に年毛(としも)神社の古文書に「万津浦」が旧名であることが分かり、そこを起点として魏志倭人伝を読み解くと大分県国東半島が邪馬台国と深い関係がある事が分かった。</p> <p>「東の海上に倭種あり」と魏志倭人伝に書かれてあるように、東と言えば瀬戸内海に通じる場所でありその謎を解くカギが魏志倭人伝の文中に書かれてある。果たしてそのカギとは……</p>		

山田 良三氏	吉備歴史探訪会 岡山歴史研究会 事務局長	日本の宗教・思想を変革してきた吉備の人物と歴史にまつわる諸説
<p>秦氏に関わり和氣清麻呂が造営太夫となった平安京の宗教的背景は何か？秦氏の父母から生まれた法然の生涯、その父の死期の二説？栄西の渡宋と将来された禅が鎌倉に受け入れられた経緯、栄西を生んだ賀陽氏のルーツとは？法然、栄西と親交の篤かった東大寺勧進重源三人は熊襲秦氏系か。その入宋は？備前法華の基、大覚大僧正来備の経緯とその出自？児島高德と大覚の同一人物説？後醍醐天皇皇子説？など日本の宗教思想史を常に変革してきた備洲（三備一作）の人物や歴史にまつわる未解明の謎は多い。</p>		
大河内 義雅氏	善通寺市郷土館所長 普覧の会 主催 元四国新聞文化教室講師	仙遊町遺跡に吉備の影響が。
<p>善通寺市の中心にある仙遊町遺跡は面積が吉野ケ里遺跡と等しく、二地方のスケールを超えており注目される。又吉備との共通性が感じられる。中国産辰砂が北九州に次いで発見されている。遺跡の鯨面文身の顔は吉備の土器のそれと著しく類似している。発見されている銅鐸は大阪の東奈良遺跡と同じ、銅剣は25本、絵画古墳16個等発見されている。又、讃岐平野には日本屈指の条里制が残っている。</p>		
高木 寛治氏	元県職員、保健所長等・現在病院勤務の精神科医	磐座と鬼ノ城と桃太郎伝説
<p>幻想：岡山県内の磐座の数は、全国屈指である。ハタ氏の信仰が背景にあると思われる。ハタ氏は、製銅・製鉄・治水等で備中から備前等へと一大勢力を築いて行った。最初は秦の正木山周辺を中心としていたが、次第にその地の利から鬼ノ城周辺がその拠点となっていき、後世に、時異不景観を残すこととなった。大井川・血吸川・多数の磐座・石切り場・山岳仏教の聖地等々である。磐座は、桃太郎伝説や古事記の古代神話を生む力を有している。</p>		
谷山 雅彦氏	現総社吉備路文化館館長 元総社市教育委員会文化課長	鬼ノ城の敷石と石敷について
<p>古代山城の「鬼ノ城」では石が多用されている。城壁は土塁と呼ばれる土を突き固めたものが中心であるが、この城壁に沿って敷石が施されているため石が目立つ。「鬼ノ城」では城壁に伴うものを敷石、門道に設けられた石を石敷と区別している。敷石は城壁の内・外に認められ、場内側では数段に施されている場所も確認されている。その状況から明らかに敷石は城壁保護のためのものである。敷石総面積は1万㎡を超え、古代山城では日本一の広さである。（紙上参加）</p>		
品川 清氏	東大阪文化財を学ぶ会員	同時期に造成された吉備王国造山古墳と古代河内王国履中陵
<p>百舌鳥古墳群の4世紀後葉には、大仙陵は存在せず巨墳づくりは履中陵から開始。不思議なことが列島内の瀬戸内沿岸岡山市「造山古墳」の築造開始時期が同時、同形の姿を児島湾に現した。当時、前方後円墳体制があり、地方豪族は体制に了解をとりつけて築造。4世紀の列島を吉備・河内が運営する意気込みを示した。4世紀後葉は物部氏が積極的に新技術を導入。履中陵の近くに陶村をつくり滲出性がない硬質性土器（須恵器）を造り、平安時代まで人々が重宝。（品川氏は講師の予定でしたが急病で現在闘病中）</p>		
平山 牧人	東京古代史研究会会長、呼びかけ人	古代吉備邪馬台国の真実は熊襲の陰謀によって封殺されていた。
<p>メインテーマ解説。●奈良の纏向遺跡と箸墓古墳は吉備の支配下にあった●記紀の編者達は反吉備勢力の熊襲である。最悪なのは吉備津神社創立時の神主加夜氏も熊襲だった事である●造山古墳の被葬者は応神天皇だ。応神天皇も熊襲出身か？●鬼ノ城は天皇の宮（天宮）。日本一の表面積の石敷き（敷石）がそれを証明する●邪馬台国（連合）の中心部は備中●熊山遺構に鑑真との友情で吉備真備が築造した鑑真和上の骨蔵器が埋められている可能性がある。和氣清麻呂は全く関与していない。</p>		